

2023.05.12 奈良 田原の里巡り

コース：近鉄奈良駅前4番バス乗り場(北野行)バス乗車(10:25発)→田原大野バス停下車(約30分)
歩→今井堂天満神社→もがりの森ロケ地→光仁天皇(白壁王)陵→太安萬侶墓→松本家住宅(大和棟)
春日宮天皇(志貴皇子)陵→田原御陵バス停(解散)→奈良駅行バス乗車(15:26発)



田原大野下車近く十輪寺入口を通り、
大野町観光トイレ前広場へ。



水田と茶畑が広がる田原の里



大野町観光トイレ前広場でサークル長点呼、本日の案内担当26期池原様紹介。



出発前のラジオ体操



今井堂天満宮へ出発



映画『殯の森』ロケ地の看板 映画監督の河瀬直美が
暮らす奈良を舞台に、家族を失った二人の登場人物、
認知症の老人と女性介護士のふれあいを通して人間の生と死を...

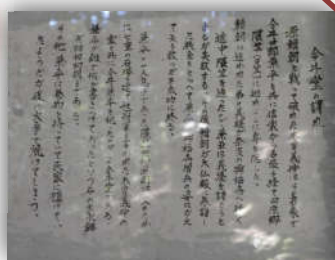




今井堂天満宮への参道



今井堂天満宮



■今井堂の謂れ

源頼朝と戦って敗れた木曾義仲はその家来で今井四郎兼平と共に信楽から名張を経て田原郷 隈笠（日笠）に逃れここに身を隠した。

頼朝に追われた弟の義経が奈良の興福寺へ行く途中、隈笠を通ったので兼平は義経を討とうとするが失敗する。

その後、頼朝が大仏殿に参詣した機会をとらへて兼平は興福寺僧兵の姿にかえて矢を放つが不成功に終る。

兼平の一人息子であった隈笠四郎兼則は、父のために七重の石塔を建て旭将軍と言われた木曾義仲の霊と共に今井兼平を祀ったのがこの今井堂である。

兼平が鍬で何か書きつけておいたという石の手水鉢が昭和初期まであった。

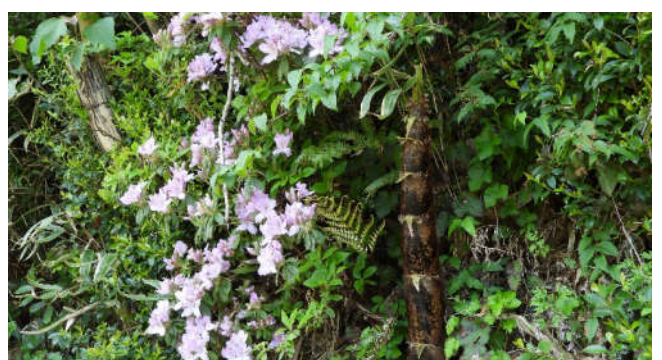
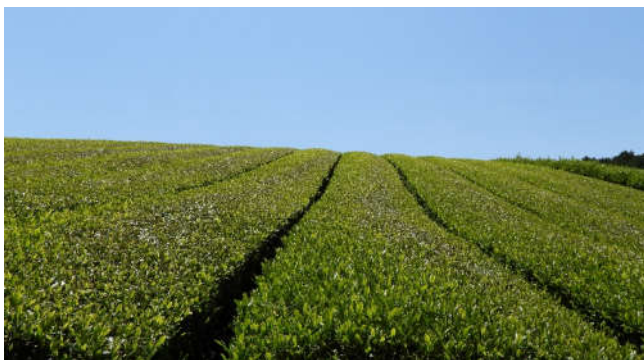
その他、兼平は巻物を持っていて民家に預けていたようだが、後に火事で焼けてしまう。



田園風景



茶畑を見ながら光仁天皇陵へ



ツツジとタケノコ



ツツジが満開



光仁天皇陵(田原東陵)



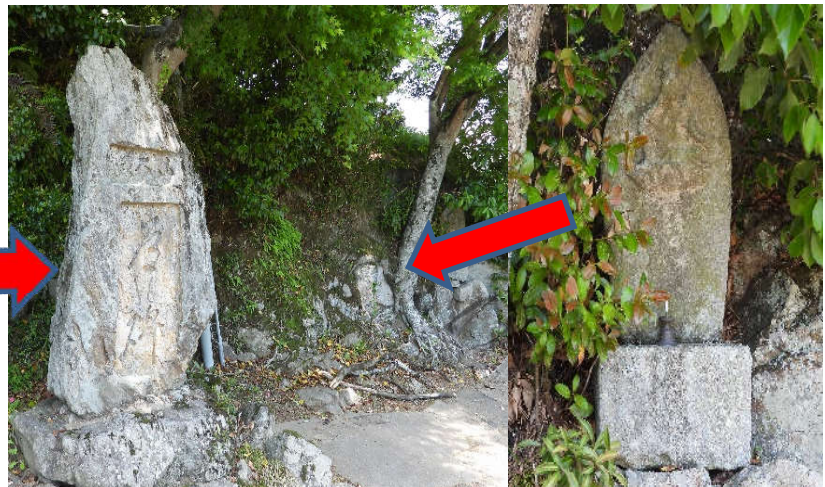
光仁天皇陵(田原東陵) 志貴皇子の息子で、62歳の高齢で即位
 古来より「王墓」「オウノツカ(王の塚)」と呼ばれる美しい円形の森で、奈良時代最後の天皇である光
 仁天皇の御陵です。崩御翌年には、広岡山陵に埋葬されましたが、5年後に現在の場所へ改葬され
 ました。



光仁天皇陵(田原東陵)



太安万侶墓へ歩く



道端に碑



田植中の夫婦



太安萬侶墓への入口



太安萬侶墓



藤の花



松本邸へ歩く



里山風景



ピンクの新芽がとにかく美しいハクロニシキ
自然観察



松本家住宅
館長さんより説明を受ける



明治6年(1873)頃から大正頃まで郵便事務が
行われ、現在も玄関口に当時名残の窓口

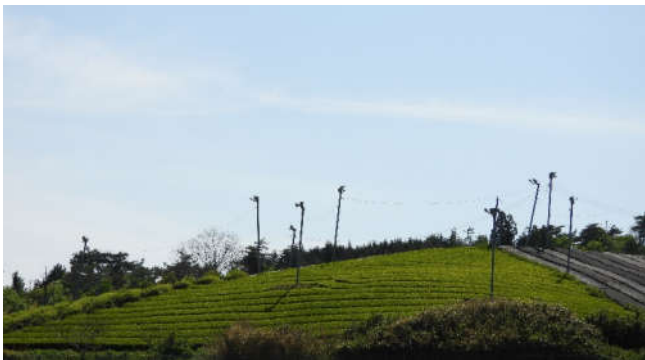


庭園





松本家住宅から春日宮天皇陵へ向かう



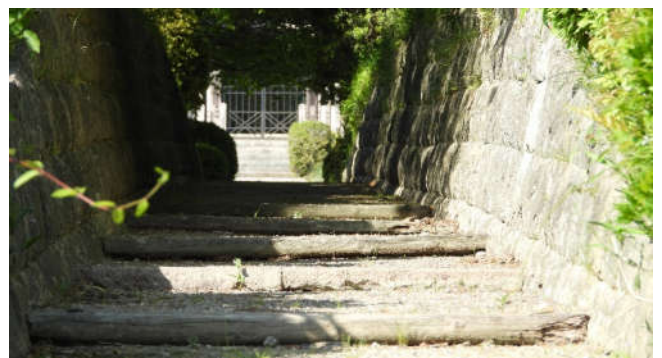
茶畑風景



春日宮天皇陵入口近くの志貴親王が詠んだ万葉歌の碑



春日宮天皇陵(田原西陵)宮内庁の看板



低い石垣に挟まれた参道は古墳の羨道のように



万葉集の歌人として知られる光仁天皇の父志貴親王の御陵です。62才で即位した光仁天皇は、父を春日宮天皇と追尊し墓を陵に改めました。天皇陵の入口付近には、志貴親王が詠んだ万葉歌の碑が建てられています。石走(いはばしる)垂水(たるみ)の上の さわらびの萌え出づる春に なりにけるかも 志貴皇子 万葉集 巻第8-1418 (岩にぶつかって水しぶきをあげる滝のほとりのさわらびが、むくむくと芽を出す春になったのだなあ)



池原様から説明



御陵からの風景



30分程のバス乗車時間待ち、自由時間 解散



茶畑



30分程のバス乗車時間待ち、自由時間



自然観察をする人 花大根

はなだいこん(花大根)
アブラナ科ショカツサイ属の二年草淡い紫色から
紅紫色の4弁花を咲かせます。別名で「むらさきは
なな(紫花菜)」とも呼ばれます。

サークル長小坂様、26期池原様に御世話いただき、有意義な
一日を過ごさせて頂き有難う御座いました。